

平成23年度第1回農林総合研究センター課題内部評価結果 (事前評価)

- 1 評価実施組織 農林水産技術推進会議農林部会
- 2 評価方法 農林水産部所管試験研究評価実施要領に準じる
- 3 評価の経過 各専門分科会で協議し、農林水産技術推進会議農林部会に報告・承認
- 4 評価区分 事前評価
- 5 総合評価 「採択した方がよい」、「部分的に検討する必要がある」、「採択すべきでない」の3区分
「部分的に検討する必要がある」、「採択すべきでない」と評価された課題は「所見・指摘事項等」と「指摘事項等に対する対応」を記載
- 6 評価結果と対応 下記の通り

課題 No.	研究課題名 大課題 中課題 小課題 細目課題	研究期間	研究概要	総合評価
1	4 露地野菜の高品質・高生産技術の確立	H24~26	低温期に収穫する露地冬どり栽培のダイコンにおいて、密植による収量増加を図るとともに、凍霜害回避程度を明らかにする。栽植密度と生育速度低下の関係から、収穫の遅延の程度を明らかにして、露地冬どり栽培における収穫期拡大を図る。本技術によってダイコンの収量が向上し、低コストの露地冬どり栽培の収穫が厳寒期にまで拡大する。	採択した方がよい
	1 露地野菜の安定生産技術の確立			
	ダイコン露地冬どり栽培の密植栽培技術の確立			
2	6 落葉果樹の高品質・安定生産技術の確立	H24~26	ニホンナシにおける「いや地現象」の発生程度には、品種によって差があることが示唆されている。そこで、「幸水」「豊水」を抜根した跡地土壌に、「幸水」「豊水」「新高」「あきづき」を定植して「いや地現象」の発生品の品種間差を明らかにする。これにより、品種毎に発生程度に応じた客土などの対策を取ることが可能になり、経営の安定につながる。	採択した方がよい
	1 ニホンナシ改植技術の特性解明と改善			
	ニホンナシにおける「いや地現象」発生品の品種間差の解明			
3	8 花植木の高品質・安定生産技術の確立	H24~26	主要な輸出用植木であるイヌマキ、イヌツゲ、キャラボクは、根洗いを容易にするため砂質土壌での栽培が望ましい。しかしながら、従来の赤土での栽培に比べ葉色が薄いことや一部で枯死株がみられるなどの問題も発生している。そこで、大型挿し穂苗の利用法、定植する際の圃場条件や埋め戻しのための砂質土壌の組成、適正な施肥量などを明らかにし、慣行栽培と同等の品質を確保するための栽培技術を確立する。これにより安全な植木の輸出が可能になる。	採択した方がよい
	輸出用植木の生産安定化に向けた栽培技術の開発			
	砂質土壌における輸出用植木類の栽培技術の確立			

課題 No.	研究課題名 大課題 中課題 小課題 細目課題	研究 期間	研 究 概 要	総合評価
4	8 花植木の高品质・安定生産技術の確立 輸出用植木の生産安定化に向けた栽培技術の開発 輸出用植木を生産するための砂質土圃場における線虫密度低減技術の開発	H24～26	輸出主要樹種において、ホスチアゼート液剤とMEP乳剤などについて、新たな処理方法として圃場における株元灌注処理による防除効果を明らかにし、適用拡大を図るとともに防除体系を構築する。これにより線虫検出事例が減少し、千葉県産植木の安全性と品質への信頼性が高まり、千葉ブランド植木が海外に認められて産地及び地域の活性化につながる。	採択した方がよい
5	8 花植木の高品质・安定生産技術の確立 4 新規導入樹種の栽培特性の解明と栽培技術の確立 鉢物特性に優れる実物植物の検索と栽培技術の確立	H24～27	鉢物として花や葉だけでなく実も楽しむことができる実物植物の鉢物栽培適性を明らかにする。温帯性の福来ミカン、一オビワ、豆柿、アーモンド、熱帯性のパッションフルーツ、アボガド、アセロラ、マンゴー、アテモヤなどの樹種を収集して、鉢物としての栽培適性や生育、開花結実条件を明らかにし、鉢物としての観賞性を評価する。適性の高い物については栽培技術を確立する。これにより、新たな鉢物品目として導入が可能になる。	採択した方がよい
6	9 高品质安定生産をめざした病害虫・雑草管理技術の確立 1 新発生病害虫の発生生態の解明と防除技術の開発 ナシ交配期間中における着果率に影響の少ない薬剤散布時期の解明	H24～25	ナシ交配期間中において病害防除を目的に薬剤散布が行えるようにすることを目的とする。ミツバチによる授粉および1花叢1花に人工授粉する場合を想定し、チウラム剤を同時期に散布して着果率等を調査する。また、低下がみられれば、着果に影響の少ない散布時期を明らかにする。以上により交配期間中における薬剤散布の可能な時期が明らかとなる。	採択した方がよい
7	13 農業の環境負荷低減化技術の開発 低濃度エタノールを用いた土壌還元消毒の実用化と実証 低濃度エタノールを用いたトマト土壌病害の防除法の確立	H24～26	低濃度エタノール処理によるトマト萎凋病等の土壌病害に対する防除法を確立するとともに、コスト削減を図るためエタノール処理量を低減する技術を開発する。また、本消毒法を導入する場合の経営的な評価を行う。ネコブセンチュウに加えて萎凋病等の土壌病害も防除可能であることが実証されることにより、トマト栽培における本消毒法の普及が促進され、本県トマトの生産安定に寄与できる。	採択した方がよい
8	13 農業の環境負荷低減化技術の開発 低濃度エタノールを用いた土壌還元消毒の実用化と実証 低濃度エタノールを用いた土壌還元消毒の消毒効果評価法の確立	H24～26	低濃度エタノールを用いた土壌還元消毒は、対象病害及び処理濃度等により消毒効果が異なる。本課題では、メロン、スイカ等で問題となるウリ類ホモブシ根腐病菌及び黒点根腐病菌に対して従来の生物検定法に比べ迅速、簡便、正確な遺伝子工学的手法を用いた定量法を確立し、その手法を用いて調査した消毒後の菌密度と圃場の発病度との関係を明らかにし、消毒効果の評価法を確立する。本評価法により消毒効果の持続性、次作の消毒の必要性の評価が可能となる、	採択した方がよい

課題 No.	研究課題名 大課題 中課題 小課題 細目課題	研究 期間	研究 概要	総合評価
9	13 農業の環境負荷低減化技術の開発 低濃度エタノールを用いた土壌還元消毒の実用化と実証 低濃度エタノールを用いたメロンの土壌病害虫防除への利用	H24～26	キュウリのネコブセンチュウやホモブシス根腐病に対し、高い防除効果がある本消毒法についてメロンにおける実用的な効果を明らかにする。ネコブセンチュウに加えて各種の根腐病防除も可能であることが実証されることにより、メロン栽培における本消毒法の普及が促進され、本県メロンの生産安定に寄与できる。	採択した方がよい
10	18 農業生産環境の維持管理技術の確立 2 省資源型施肥体系の開発 褐色低地土における施設トマト栽培のリン酸減肥基準の策定	H24～26	リン酸が蓄積した褐色低地土の施設圃場におけるトマトのリン酸減肥基準を設定するために、可給態リン酸レベルの異なる褐色低地土でトマト栽培を行い、収量及び品質を評価基準として、適正なリン酸施用量を作型ごとに明らかにする。	採択した方がよい
11	22 森林資源の保全及び森林の活用技術の開発 1 防災林の管理技術の確立 海岸防災林における広葉樹林化技術の確立	H24～31	マツ材線虫病の被害が大きい海岸防災林において、クロマツ以外の樹種が生育可能な地域では広葉樹林化技術の確立が求められている。このため、広葉樹の植栽試験及び疎林化したクロマツ林に侵入した広葉樹の育成試験を行い、広葉樹林化の技術を確立する。得られた成果により、多様な海岸防災林を造成することができ、また、広葉樹林化した地域ではマツ材線虫病の防除が不要となるため、管理費が低減することが期待される。	採択した方がよい
12	27 果樹の新品種育成と導入・選定 1 落葉果樹の新品種育成 (4) ニホンナシの育種年限短縮技術の開発 2) 早期結果を目指した接ぎ木及び桃沢式育成法による育種系統の生育促進法の確立	H24～25	ナシの千葉県オリジナル品種の育成が強く望まれているが、育種には膨大な年月を要する。そこで、育種年限の短縮技術を開発する。これまで、実生の生育促進には追肥とハウスの利用が有効であることがわかった。次に、育成系統を速やかに成熟相に移行させることを目指し、桃沢式の主枝の育成法を応用して生育促進を図る。これにより短期間に花芽が着生して果実特性等を評価できるようになり、新品種の育成が短期間に行われることが期待される。	採択した方がよい
13	29 千葉県を元気にするオリジナル品種の開発・定着促進 効率的な育種技術及び品種識別技術の開発 水稲、イチゴにおけるDNAマーカー技術の開発と利用	H24～28	水稲、イチゴを対象に、蓄積されているDNAマーカー情報を利用して、現有の施設で効率的な優良個体の選抜ができるように改良を加える。また、DNA抽出法についても、低コスト化及び効率化を図る。以上の技術を活用して、育種のスピードアップを図る。	採択した方がよい

課題 No.	研究課題名	研究 期間	研 究 概 要	総合評価
14	29 千葉県を元気にするオリジナル品種の開発・定着促進 効率的な育種技術及び品種識別技術の開発 ニホンナシ育成系統の品種識別技術の開発	H24～26	千葉県で育成中の選抜系統「千葉3号」などを識別するための技術開発を行う。(独)果樹研究所及び(財)かずさDNA研究所で開発された既存品種の品種識別技術及びDNAマーカーを検証する。既存品種と区別ができなかった場合には、両研究所から新たなDNAマーカーの分譲を受け、「千葉3号」などが識別可能なDNAマーカーの組み合わせを探索する。この技術開発により、品種の盗難等の不正に対する抑止力となる。	採択した方がよい
15	29 千葉県を元気にするオリジナル品種の開発・定着促進 育成品種の商品化及び普及促進条件の解明 消費者ニーズに対応した品種育成の方向性及び販売上の重点方策の解明	H24～25	売れる商品として実用化する観点から、品種育成の方向性やマーケティング戦略の重点方策を明らかにする。第1にグループインタビュー等の手法により消費者ニーズを調査する。第2に販売関係者への聞き取り調査から、県産農産物に対する期待感や不満を品目別に整理する。上記で得られた情報を総合的に分析し、品種の特性を活かし、効果的に消費者ニーズを満たす販売方策を整理して提示する。	採択した方がよい
16	29 千葉県を元気にするオリジナル品種の開発・定着促進 育成品種の商品化及び普及促進条件の解明 育成品種の普及プロセス分析に基づく商品化とプロデュース手順の解明	H24～26	県育成品種を売れる「商品」とするため、従来の品種普及プロセスの問題点や他県戦略を検討し、これらを踏まえた推進体制や販売促進対策を総合化して「プロデュース手順」として取りまとめ、施策提言とする。	採択した方がよい
17	30 優良種苗の安定生産技術の開発 1 高品質種苗の低コスト安定生産技術の確立 「ふさおとめ」及び「ふさこがね」における水稻種子歩留り・収量安定のための生育指標値の策定と生育制御技術の確立	H24～26	「ふさおとめ」及び「ふさこがね」の採種栽培において、水稻の生育と種子歩留り・種子収量との関係を明らかにし、生育指標値の策定と種子歩留り・種子収量向上技術を確立する。場内試験で水稻の生育と種子歩留り・種子収量との関係を品種ごとに明らかにする。現地採種圃では種子歩留りの低迷要因の解明と栽培技術の改善を図る。これらにより、種子生産農家の経営の安定と、種子の安定供給に寄与する。	採択した方がよい
18	30 優良種苗の安定生産技術の開発 1 高品質種苗の低コスト安定生産技術の確立 色彩選別機を活用した水稻種子調製技術の確立	H24～26	「ふさおとめ」、「ふさこがね」及び「コシヒカリ」の色彩選別機を用いた種子選別における適正な選別方法を明らかにし、栽培管理や気象条件等により増減する被害粒の混入率に応じた適正な使用方法を策定する。種子センターにおける色彩選別機を用いた種子選別法が確立され、種子の生産量と品質が確保されることにより、県内の水稻栽培の安定化に貢献できる。	採択した方がよい

課題 No.	研究課題名 大課題 中課題 小課題 細目課題	研究 期間	研究概要	総合評価
19	32 DNA情報に基づく品種識別技術の開発	H24～27	<p>本県および生産組合が保有しているアールスメロンの親系統の草姿や果実品質等を調査して表現型を評価するとともに、遺伝子診断を実施して、検出したDNA多型から系統を識別する技術を確立する。</p> <p>本技術により栽培用F1温室メロンの効率的・持続的な自家採種が可能になり、温室メロンの品質が安定し、産地の維持拡大につながる。</p>	採択した方が よい
	1 先端ゲノム解析技術を利用した高度品種識別システムの開発			
	温室メロンの自家採種を効率化するアールスメロンの系統分類			
20	34 農産物の高品質流通加工管理技術の開発	H24～25	<p>県内で栽培される晩生エダマメの中で、生産者の増加が見込まれる「小糸在来」、「鴨川七里」、「丹波黒」を対象に、莢の厚さと色から収穫適期が判定できる「収穫適期判定スケール」を開発する。さらに、収穫適期判定スケールで分類したエダマメについて食味関連要素を分析し、莢の厚さと莢色に対応した食味特性を解明することで、販売先に対応したエダマメ出荷基準を提案する。</p>	採択した方が よい
	1 農産物の品質評価技術の開発			
	晩生エダマメの収穫適期判定スケールの開発			